

これまでの評価委員会・小委員会（第 13 回小委前）における委員意見及び対応（検討中のもの）

No.	区分	資料	委員意見	対応状況等
1	海域小委 (第 10 回)	資料 2 (目次 1-X-ジ)	(古川委員) 海域は、陸域の流域や沿岸域全体として成り立っているため、現在の環境をみる上で、海域を取り巻く背景（社会風土、産業活動等）も含めて記載すべき。 (滝川委員長) 経済活動作用などについても記載すべき。	次回の小委員会で「2 章 有明海・八代海の概要」関連資料をお示しする予定である。その際にご意見を踏まえた資料としたい。
2	海域小委 (第 11 回)	資料 4 全般	(松野委員) 海域区分毎に区切って整理されているが、隣の海域からの流入については具体的に検討されるのか。	現在、各海域間の収支についてモデル計算を検討している。次回以降、試算結果を示したいと考えている。
3	評価委 (第 37 回)	資料 全体	(古賀委員) 第 35 回評価委員会で、海域相互間の S S 流入・流出等をシミュレーションすることが示されていたが、その結果が示されるとの理解でよいか。	
4	評価委 (第 37 回)	資料 3-6 (A6 海域)	(速水委員) 底質のデータは諫早湾口の 1 点のみであり、貧酸素に関するデータも示されていない。諫早湾内は農政局による調査が行われており、調査点数も多い。期間も 2005 年以前からある。今後取り上げていくべき。	データについて関係者に確認しているところ。